

# やすらぎ

特養住民  
佐々木アキノ筆

第14号

発行 平成13年12月25日  
社会福祉法人やすらぎ会  
編集 広報委員会



紙粘土で世界に一つしかない小物入れ制作中！  
〈文化祭に向け真剣な表情で作品をつくる特養住民山鼻シマエさん〉

- ◆特別養護老人ホームぶなの園
- ◆デイサービスセンターぶなの園
- ◆沢内村在宅介護支援センター
- ◆ホームヘルプステーションぶなの園
- ◆西和賀介護相談室

沢内村大字太田第2地割135番地 ☎0197-85-2322

◆沢内村高齢者生活福祉センターかたくりの園

沢内村大字大野第17地割140番地1 ☎0197-85-3388

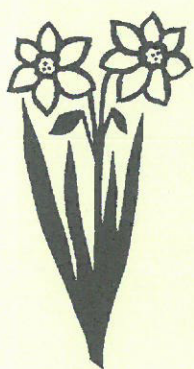


# 人生の最期を それぞれの思いで

いつか迎えるであろう「死」その時をどこで迎えるか。それは各々考えるところが違うと思われまふ。おそらく大半の方は施設等ではなくご自宅で、ご家族に見守られて死を迎えたいと考えるのではないのでしょうか。介護保険法では、特養は「終の住みか」ではなく、あくまで家庭復帰に向けてご援助させていただく中間的施設として位置付けられています。しかし、実際は特養からご自宅に戻って生活されるという事はなかなか

難しく、ぶなの園で天寿を全うされる方も多くおられます。人生の最期をどのように迎えていただくか、ぶなの園ではご本人やご家族に意向をお伺いし、できる限りその意向に添えるよう、ご援助させていただいております。例えばある方のご家族はぶなの園での看取りを希望されました。少しでも長く一緒にいたいと、終末期にはぶなの園で寝起きを共にし、その方はご家族に見守られながら、静かに息を引き取られました。

またある方は、容態が急変しすぐに病院で治療を受けましたが、残念なことにその日のうちに亡くなられてしまいました。その時に、すぐに自宅には戻らず、これまで一緒に過ごした皆さんとお別れをさせたいとご家族のご希望で、病院からぶなの園に戻って住民や職員とお別



お別れのことばを胸にご焼香する特養住民

れをし、みんなに見送られてご自宅に帰られました。

このお見送りの際に、ぶなの園では簡単ですが祭壇をご用意し、住民や職員が一人ひとりご焼香させていただいております。そして、住民の代表者がお別れのことばとお花を手向け、その後、ご自宅に向かう車が見えなくなるまで、お見送りさせていただいております。

ご焼香の際涙をこらえ切れず、声を震わせて亡くなった方に話しかける住民の姿も見られます。このお見送りは、たくさんのお見送りを一人ひとりが最後の思い出を胸に一人ひとりが最後のお別れを告げる大切な時間と

## 新しい住民 ご紹介

平成二十三年九月〜二月

〔10月入居〕



北上市 亀井サメさん (84歳)

〔11月入居〕



東京都 高橋とし子さん (81歳)

(年齢は十一月末日現在) よろしくお願いいたします

## 『晴れた日は外に出よう』

### もみじ狩りで気分リフレッシュ!

特養住民の強い希望もあり、一〇月一六日から二八日までの期間、特別養護老人ホームぶなの園ではミニドライブを兼ねた「もみじ狩り」を実施しました。これまでは計画しても天候に恵まれないなど、なかなか計画通りに出かけることができませんでした。そこで今回は期間を設定し、「晴れた日は外に出よう」を目標に行ないました。その結果、期間中に外出できた回数は一〇回。ほとんどの住民が参加することができ、「楽しくてもう一度出かけた」と、中には二回出かけた住民もおります。

もみじ狩りから帰った住民は、顔には笑み、手には赤や黄色に染まったもみじを持ち帰り、食堂のテーブルに飾って皆さんで楽しそうにみやげ話をしておりました。感想を伺うと、「雨降っても次の日晴れば連れていっても



もみじのおみやげを手に笑顔の高橋スミさん

らえだがらおもしろがった」今年紅葉はいつもよりきれいで行った甲斐があった」など、その表情からも楽しかった様子が伝わってきました。

今までもあまり外出したことがなかった方も、今回参加したことで、「またいつか出かけてみたい」と、早くも次回を楽しみにしている声がありました。

外出によって住民の方々の表情がこんなにも明るくなるということもあらためて実感し、長い間雪に覆われる沢内だからこそ、今後も住民の意向に添い、

## 指導監査を 終えて

去る十一月八日、県及び北上地方振興局による指導監査がありました。

監査対象となったのは社会福祉法人と指定介護福祉施設(特別養護老人ホーム)の運営に対してでした。

指導監査の視点は、①前年度文書にて改善を指示された事項が改善されているか。②介護保険制度下での介護福祉施設の事業運営が、介護保険法の「人員及び運営に関する基準」に則り的確に行なわれているか。の二点です。振興局からの正式な文書での指摘は年度末になります。が、当日監査後の講評での指摘

心身共にリフレッシュしていただける機会を住民と共に実施していきたいと考えております。

〈特養寮母 照井由美子〉

で大きな点は以下のようです。  
一、財務関係で、一・二年度決算処理の際、数字の入力ミスがあり、翌年度処理となった。今後伝票やパソコン入力等の際、ミスのないようにすること。

二、昨年度不十分であると指摘された住民一人ひとりの個別援助計画は、この計画を作ることを専門とする介護支援専門員(ケアマネージャー)を配置するなど努力している姿が見られる。今後はこれに基づく住民の生活援助を徹底させたい。

三、「指定介護老人福祉施設」の基本方針や、設置・人員の基準など、関係する全職員が内容を理解し、業務に当たること。

四、廊下や居室の窓が自由に開かない建物となっているが、大きな意味では身体拘束とも理解できる。住民の生活に合わせ、自由に外に出られる等のことも、積極的に検討していただきたい。

〈施設長 上野米子〉



# 和やかな雰囲気でお話が出来ました

## 在宅サービス家族懇談会

在宅サービスをご利用いただいている方のご家族の皆さんから、率直なご意見やご要望をお伺いしたい。そこで、一月から二月にかけて、在宅サービスの各事業所ごとに「家族懇談会」を開催しております。

二月三日の時点で二つの事業所の家族懇談会が行なわれておりますので、ご家族からあげられたご意見やご感想等をご紹介します。

### 「デイサービスぶなの園」

デイサービスぶなの園の家族懇談会は一月一四日に開催され、ご利用者一名中、六名の

からは、「送迎の時には、家中に入って火の確認をしてもらいたい」などのご要望があげられました。

### 「デイサービスぶなの園」

寮母 高橋直美

#### 参加者のご感想

「自分一人で介護をするのではなく、家族ぐるみでやっていかなければならないと感じました。同じような悩みを持つ家族の方と話をし、励みになりました」

(S・Tさん)

### 「ホームヘルプサービス」

二月三日、ホームヘルプサービスの家族懇談会が行なわれました。初めての開催であり、時間帯が夕食どきであったこともあって、ご参加くださったご家族は三名でした。

職員、ご家族の方がそれぞれ自己紹介をし、みかんを食べながら和やかな雰囲気での懇談。ヘルパーが伺った時のご利用者の様子とは違った普段の様子などもお聞きすることができ、大変貴重な情報交換の場となりました。

# あしあと

人生の先輩である高齢者の方に、昔のことやその方の生い立ちなどをお聞きすることは、特に若い世代にとっては当時の状況をうかがい知る上で大変貴重であり、援助内容を考える時の参考にもなります。ここでご紹介させていただくのは、デイサービスかたくりの園をご利用いただいている高橋ミエさんが、昔を思い出して職員に語ってくださったお話です。

## 「父ちゃんなしでだば考えられねえ」

丸志田 高橋ミエさん(七四歳)

学校さだば歩いだな。猿橋小学校、高等小学校、青年学校行って行ったなあ。青年学校に入った時裁縫習ったもんだ。裁縫だば嫌いでながつたな。学校終わってがら一八の時、川ぶし(川工事)やら、土突きさあ行つて

ご家族の方がご参加くださいました。

これからの季節、ご家族の方が特に心配されているのが、ご自宅での「火」の取り扱いです。ご利用の方がデイサービスから戻っても、ご家族が仕事から帰るまでの間、一人きりになつてしまうというご家庭もあります。そのようなご家庭のご家族



ホームヘルプサービス 家族懇談会の様子

した。

今回の懇談会では特に要望等はありませんでしたが、「要望は本人が直接ヘルパーさんに話しているので、私からはありません」と話すご家族もおりました。

### 「ホームヘルパー 高橋真由美」

#### 参加者のご感想

「普段はヘルパーさんとゆつくり話をすることがなかなかないし、他の家族の方と話をする機会もなかったもので、参加して良かったです」

(T・Sさん)

なお、デイサービスかたくりの園の家族懇談会は二月一六日の開催予定です。

## より良いサービスを

### めざして

ホームヘルプサービス(訪問介護事業)は、平成九年度までは社会福祉協議会が行ない、沢内村の高齢者福祉事業の中では長い歴史を持ちます。

平成一〇年四月よりやすらぎ会が沢内村より受託し四年目。平成一二年からは介護保険制度でのサービスの提供となりました。その結果、それまでは所得が低い方は無料でしたが、例えば一時間の家事援助で一七六円の料金を支払うことになって

います。また、他の高齢者サービス事業と大きく異なる点があります。それは施設においていただくのではなく、ヘルパーがご利用者のご自宅を訪問して、入浴のお手伝いや食事づくり、その他さまざまな生活のご援助をさせていただきますという事です。ご利用される方の中には「今



笑顔で他のご利用と会話をする 高橋ミエさん(写真左)

結婚してからわらし五人産んだ。五人育てるごはゆるぐねえごだったども、父ちゃんと一緒になつて炭焼きだの、百姓だのつて、自慢でねえども本当によく働いで五人のわらしを育てだつた。でも歳とつてがらやっぱりその時の無理が出でしまつて、父ちゃん腎臓悪くして七七歳で亡くなつてしまつた。

働き通して苦労したども、父ちゃんが一緒になつて頑張つてけだがら、今のオレがあると思う。父ちゃんなしでだば考えられねえ人生だつたよ。

### 「聞き手 かたくりの園 寮母 菊池紀子」

日はヘルパーさんが来るから」と気づかい、ご無理なお身体なにお部屋を整理なさろうとしたり。そのようなお姿を思うと心が痛みます。

そこで今年度計画の一つとして、第三者(やすらぎ会の役員等とは関係ない方)に次のようなことをお願いすることにしました。第三者の任務は、ホームヘルプサービスを利用していらっしゃる方のご家族に、私どものお仕事に対するご不満やご要望などを聞いていただくことです。そしてやすらぎ会に報告いただきます。その内容から反省すべき点等は即実行し、ご利用者のご要望に今まで以上に添えるよう努力して参ります。

今年度は二、三月に一回ですが、一四年度からは年二回行なつていく予定です。これは、やすらぎ会全体の苦情解決委員会とは別で、ホームヘルプ事業に限りです。

ご利用者のより良い生活のため、ぜひ積極的なご意見をいただくための計画です。

施設長 上野米子



# 沢内に生きる私たちの生活をより快適に

## ～やすらぎ会第一回文化祭開催～

来場者総数約二四〇名。初めての開催で、うまくいくかどうか不安を抱えながら当日を迎えたやすらぎ会第一回文化祭は、予想をはるかに超えるご来場者の数に、職員一同「喜び」よりもまず先に「驚き」でした。

この文化祭の目的は、特養住民や在宅サービスご利用者の作品を通して、地域の方々の交流を図ること。そして特に重点を置いたのが、きれいな作品を見ていただくことではなく、時間をかけ一生懸命制作してきた過程です。この過程こそが大切であり、村民の皆さんに見ていただきたいところであると考える、集中して作品をつくる様子の写



特養とデイサービスご利用者のテープカットで幕開け

真を撮るなどして、制作過程も一緒にご紹介することにしました。当日、廊下やボランテニア室には書道やちぎり絵、陶芸などさまざまな作品が並べられ、テープカットと勇壮な沢内太鼓でオープニング。午前はせんだん保育所、趣味の会、コーラスグループ「リリシャン」のステージ発表が行なわれました。午後は、「人として介護を受けること」というテーマで、群馬県で大学の教員をされている安田陸男氏に講演をしていただき、その後、特養住民の柏崎フミさんと若畑の吉田史子さんによる発表。これらを受けたかた



“リリシャン”の皆さんの美しいハーモニー

ちで、介護者全員で「介護」に対して自由に話し合う「語らいの場」となりました。講演をしていただいた安田氏ほか、ご参加くださった方数名にご感想などをお伺いしておりますのでご紹介いたします。

『この方がいてくれて

よかった』

安田陸男さん

会場のちょうど真ん中のあたりに、私の話に大きくうなづきながら真剣に耳を傾けてくださるお年寄りの方がおりました。

私がこのような講演で常心がかけていることは、特定の誰かに語りかけるように話す、という事です。その方が私の話に対して何らかの反応を示してくださることによって、自分自身ものつてくる。この最初の雰囲気づくりが大切であり、会場の方と一緒につくっていくものと考えております。

会場の中にそのような方を見つけれない時には、頭の中に誰かを思い浮かべながら、という事もあります。

文化祭での講演では、真ん中で身を乗り出すようにして聞いてくださるこのお年寄りの方を見つければ、「この方がいてくれてよかった」と思いながら、お話をさせていたできておりました。



語らいの場で助言を述べる安田氏

い」と言われた」「ドキドキしなかった」「かなちゃんのおばあさんも踊っていた」などなどでした。

緊張する子どもたちですが、文化祭の舞台を踏めたことは一人ひとりの自信につながり、また、ぶなの園でいろいろな人を見かけたり声をかけられ応答する中で、社会性が身に付けられたりしたと思います。そして、何といたってもお年寄りの方々にほめられたり、かわいがられたりしたことは、子どもたちにとつては最高のものです。

どの部門をとつても充実した文化祭でした。特に養蚕に関しては悠久の自然の中で家庭内で生産される姿に思いを馳せることができ、先人の知恵と技術、沢内の奥深い良さと歴史を感じることができ、園児ばかりでなく、職員共々とてもいい気分になりました。ありがとうございました。

介護者として発表

若畑 吉田史子さん

ぶなの園住民の方が、あれだ

け大勢の方の前で感謝のことはばなどを発表され、驚きました。おそろく介護を受けている一人ひとりが、発表者の方と同じ思いでいるのだろうと思います。私は在宅での家族の介護について発表させていただきましたが、自分が直面した苦労や経験しかわからず、語らいの場でのいろいろな方のお話を聞くことができたことは、大変良かったと思います。非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。

川舟 高橋トミ子さん

ぶなの園に入居している親戚の書道の作品が展示してあり、「よく書いたなあ」と思っで見えてきました。他の作品もすばらしく、やればここまでできるものなんだなあと感じました。

午後の講演で学んだことは、痴呆を持つ家族の話や行動に対して、「それはダメ、それは違う」



数々の作品に足を止めて見入るご来場者の皆さん

とやめさせるのではなく、私たちがそれに合わせて受け答えすることが大事、ということですが、なかなか難しいことですが、今後はそのように努力していきたいと思えます。

特養住民 亀井サメさん

いろいろなステージ発表が見れて楽しかった。特に保育所の子どもたちの発表がかわいくてよかったです。

特養住民 高橋サヨさん

お祭りなどが集まるものから好きで、文化祭にたくさんの方が来てくれたので楽しかった。



## ホーム喫茶のご案内

【開 店 日】

1月20日(日)

2月17日(日)

3月17日(日)

【ご利用時間】

13:30~16:30

【場 所】

ぶなの園

地域交流の場

お待ちしております！

## 編集後記

沢内村の長い冬が始まりました。

村民にとっては、どちらかというといくなくないイメージしか浮かんでこないこの季節ですが、冬には冬の良さがあります。

たとえば農業を営んでおられるご家庭などでは、夕食の時間が夏季に比べるとだいぶ早くなっていることでしょうか。お子さんからお年寄りの方まで、家族そろってゆっくりと食事をとり、暖かい部屋でテレビを見たり、話をしたりする。寒い冬だからこそ、自然に感じられる“家族”のぬくもりがあると思います。

冬の良さ、探してみませんか。

〈やすらぎ会広報委員〉

高橋 涉 近藤富子 上中屋敷陽子  
佐々木菜穂子 高橋宏明 高橋直美

## 感謝申し上げます

平成13年9月~平成13年11月

【ご寄贈】

- ・大島スマエ様
- ・せんだん保育所様
- ・高橋トミ子様
- ・高橋正子様
- ・大石テツ子様
- ・高橋哲雄様
- ・花香堂様
- ・新町郵便局様
- ・南川幸一様

【ボランティア等】

- ・沢内村民生委員の皆様（住民介助等）
- ・泉沢婦人会の皆様（ 〃 ）
- ・北上地区看護協会の皆様（ 〃 ）
- ・深沢タキ様（ 〃 ）
- ・太田若草会の皆様（食堂清掃）
- ・沢内村理容組合の皆様（住民理髪）

在宅での介護のお悩みは

**在宅介護支援センター** にご相談ください

《電話番号》

**85-2319**（支援センター直通）

**85-2322**（土・日・祝日、夜間対応）

お気軽にどうぞ！